[Summary of findings tables リスト]

① 慢性安定期 CQ2: IPF においてステロイドと免疫抑制薬の併用を行うべきか?

② 慢性安定期 CQ3: IPF 患者に NAC 吸入単独療法を行うべきか?

③ 慢性安定期 CQ4: IPF 患者にピルフェニドンを投与すべきか?

(4) 慢性安定期 CQ5: IPF 患者にニンテダニブを投与するべきか?

⑤ 慢性安定期 CQ7: IPF 患者にピルフェニドンとニンテダニブの併用を行うべきか?

⑥ 急性増悪時 CQ12: IPF 急性増悪に好中球エラスターゼ阻害薬を投与すべきか?

① 慢性安定期 CQ2: IPF においてステロイドと免疫抑制薬の併用を行うべきか?

質の評	価						患者の数		効果		エビデンスの質	重要性	
研究	研究	バイアス	非一貫	非直接	不精確	その	介入名	プラセボ	Relative	絶対数			
数	デザイン	リスク	性	性	性	他			(95%CI)	(95%CI)			
生存	生存率 ¹												
1	RCT	深刻な	_	深刻な	深刻な	なし	プレドニゾン+	プレドニゾン+	RR 0.93	1,000 につき 27	○○○○ 低	重大	
	Raghu1991	限界なし		非直接	不精確		アザチオプリン 4/14(28.6%)	プラセボ 4/13 (30.8%)	(0. 29∼	減少 (218 減少			
				性なし	さ				2. 97)	~606 増加)			
1	RCT	深刻な	_	深刻な	深刻な	なし	プレドニゾン/プ レドニゾロン	プレドニゾン/プ レドニゾロン	RR 0.98	1,000につき3			
	Miyazaki	限界なし		非直接	不精確		レトープロフ +シクロスポリン		(0. 40∼	減少(104 減少			
	2015			性なし	さ		Α	₹F	2. 39)	~242 増加)			
							8/47 (17. 0%)	8/46 (17. 4%)					
肺活	量												
1	RCT	深刻な		深刻な	深刻な	なし	プレドニゾン+	プレドニゾン+	RR 1.55	1,000 につき	0000 低	重大	
-	Raghu1991	限界なし		非直接	不精確		アザチオプリン	プラセボ 3/13 (23. 1%)	(0. 46∼	127 増加(125			
	inagina i v v i			性なし	さ		5/14 (35. 7%)	3/13 (23.1%)	5. 22)	減少~974 増			
										加)			
肺活	里里												
1	RCT	深刻な		深刻な	深刻な	なし	プレドニゾン/プ		_	MD 0.08 増加	○○○○ 低	重大	
	Miyazaki	限界なし		非直接	不精確		レドニゾロン +シクロスポリン	レドニゾロン +シクロホスファ		(0. 03 ~ 0. 13			
	2015			性なし	さ		A 47	E F 47		増加)			
6 分間	』	美∶SpO ₂						•					
1	RCT	深刻な	_	深刻な	深刻な	なし	プレドニゾン/プ		_	MD 2.4% 減少	0000 低	重大	
'	Miyazaki	限界なし		非直接	不精確		レドニゾロン +シクロスポリン	レドニゾロン +シクロホスファ		(5.9減少~1.1			
	2015			性なし	さ		A 47	ミド 44		増加)			
安静	時 Pa02			1		•		•	ı	•	•		
1	RCT	深刻な		深刻な	深刻な	なし	プレドニゾン+	プレドニゾン+	RR 2.17	1,000 につき	0000 低	重大	
'	Raghu1991	限界なし		非直接	不精確		アザチオプリン	プラセボ	(0. 71 ~	270 増加(67 減	E , 0.0.0		
	agiia i voi			性なし	5		7/14 (50. 0%)	3/13 (23. 1%)	6. 66)	少~1000 増加)			
血清	マーカー	•		•		•	•	•	•			•	
1	RCT	深刻な		深刻な	深刻な	なし	プレドニゾン/プ		RR 0.98	1,000につき3	0000 低	重要	
'	1.01						レドニゾロン	レドニゾロン			2000		

Miyazaki 2015	限界なし	非直接 性なし	不精確 さ	+シクロスポリン A	+シクロホスファ ミド	(0. 40~ 2. 39)	減少(104 減少 ~242 増加)	
		-	_	8/47 (17. 0%)	8/46 (17. 0%)			

- # Raghu2012 は、中間解析の結果で既に死亡と入院がプラセボ群に比して有意に多く、試験途中での中止という結果だった為、エビデンステーブルには組み入れなかった。
- #1 Raghu 1991 (Prednisone + Azathioprine VS Prednisone + Placebo) 、Raghu 2012 (Prednisone + Azathioprine + N-Acetylcysteine VS NAC 単独治療 VS プラセボ群)、Miyazaki 2015 (Cyclosporine A + low-dose corticosteroids VS Cyclophosphamide + low-dose corticosteroids)は、それぞれ本臨床疑問に該当するが、治療内容の違いを統一的に包括して考え難いので、統計学的な統合は実施せず。

② 慢性安定期 CQ3: IPF 患者に NAC 吸入単独療法を行うべきか?

質の評	価						患者の数		効果		エビデンスの質	重要性
研究	研究	バイアス	非一貫	非直接	不精確	その	NAC 吸入	ブロム	Relative	絶対数		
数	デザイン	リスク	性	性	性	他	単独療法	ヘキシン	(95%CI)	(95%CI)		
生存	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·											
2	RCT	深刻な		深刻な	深刻な	なし	2/54	2/58	RR 1.20	1,000 につき 7 増加	⊕○○○ 低	
_		限界なし		非直接	不精確		(3. 7%)	(3.4%)	(0. 20∼	(28 減少~209 増		
				性なし	さ		(-1 1 /0/	(01.170)	7. 05)	加)		
肺活動	量 (FVC)											
1	RCT	深刻な	_	深刻な	深刻な	なし	38	38	_	MD 0.06 増加		
	Homma2012	限界なし		非直接	不精確	0.0				(0.05 減少~0.17 増		
				性なし	さ					加)		
急性均	曽悪											
1	RCT	深刻な	_	深刻な	深刻な	なし	1/44	4/46	RR 0.26	1,000につき64減少	⊕○○○ 低	重大
-	Homma2012	限界なし		非直接	不精確		(2.3%)	(8. 7%)	(0.03∼	(84 減少~109 増		
				性なし	さ		(== = 70)	(=== 7,0)	2. 25)	加)		
6MWT	SpO ₂											
1	RCT	深刻な	_	深刻な	深刻な	なし	10	12	_	MD 6.5 増加		
-	Tomioka2005	限界なし		非直接	不精確					(4.85~8.15 増加)		
				性なし	さ							
Dyspr	nea											
1	RCT	深刻な	_	深刻な	深刻な	なし	5/38	6/37	RR 0.81	1,000につき31減少		
-	Homma2012	限界なし		非直接	不精確		(13. 2%)	(16. 2%)	(0. 27∼	(118 減少~232 増		
				性なし	さ		(1111-70)	(111 = 707	2. 43)	加)		
KL-6												
1	RCT	深刻な	_	深刻な	深刻な	なし	10	12	_	MD 412 減少		
1	Tomioka2005	限界なし		非直接	不精確		.	- -		(118~705 減少)		
				性なし	さ					L. Lindston		

^{#1} 生存率に関しては、Homma 2012 は両群ともに死亡例がなく(真の)統合結果とは判断しなかった。

^{#1} Tomioka 2005 と Homma 2012 との共通アウトカムが公表されておらず、(生存率を除いて)統合解析が不可能であった。

③ 慢性安定期 CQ4: IPF 患者にピルフェニドンを投与すべきか?

質の評	価						患者の数		効果		エビデンス質	重要性
研究	研究	バイアス	非一貫	非直接性	不精確	その他	ピルフェ	プラセボ	相対	絶対数		
数	デザイ	のリスク	性		性		ニドン		(95%CI)	(95%CI)		
	ン											
死亡率	(追跡調査	期間 72 週)	•						-	•	•	
5	RCT	深刻な	深刻な	深刻な	深刻	なし	41/804	59/763	RR 0.7	1,000 につき 23	⊕⊕⊕○中	
		限界なし	不一致	非直接性			(5. 1%)	(7. 7%)	(0. 47∼	減少(41 減少		
			なし	なし					1. 02)	~2 増加)		
肺活量	(追跡調査	期間 72 週;	%FVC、VC お	よび FVC に	基づく SMD	で測定;高	高い値ほど良	好)	-	•	•	
4	RCT	深刻な	深刻な	深刻な	深刻な	なし	521	485	_	MD 0.23 増加	⊕⊕⊕⊕高	
		限界なし	不一致	非直接性	不精確					(0.06~0.41		
			なし	なし	さなし					増加)		
光線過	敏症(追跡	調査期間 72	週)					•		•	•	,
4	RCT	深刻な	深刻な	深刻な	深刻な	なし	130/526	30/489	RR 5.3	1,000 につき	⊕⊕⊕⊕高	
		限界なし	不一致	非直接性	不精確		(24. 7%)	(6. 1%)	(1.46~	264 増加(28 増		
			なし	なし	さなし				19. 24)	加~1,119 增		
										加)		
食欲不	振	ı	Į.					•	1	•		II.
5	RCT	深刻な	深刻な	深刻な	深刻な	なし	122/804	36/766	RR 2.96	1,000 につき 92	⊕⊕⊕⊕高	
		限界なし	不一致	非直接性	不精確		(15. 2%)	(4. 7%)	(2.06∼	増加(50 増加	, ,	
			なし	なし	さなし				4. 27)	~154 増加)		
疲労			•									•
4	RCT	深刻な	深刻な	深刻	深刻な	なし	178/695	120/695	RR 1.42	1,000 につき 76	⊕⊕⊕○中	重大
		限界なし	不一致		不精確		(25.6%)	(18. 2%)	(1~	増加(0減少~	,	
			なし		さなし				2. 02)	186 増加)		
胃不快	.感	•						•		•	•	,
4	RCT	深刻な	深刻な	深刻	深刻な	なし	54/526	10/489	RR 4.2	1,000 につき 65	⊕⊕⊕○中	重要
		限界なし	不一致		不精確		(10.3%)	(2%)	(2. 17 ~	増加(24減少	,	
			なし		さなし				8. 11)	~145 増加)		
酸素飽	和度(追跡	調査期間 9:	カ月;高い値	直ほど良好)				•	•	•	•	,
2	RCT	深刻な	深刻な	深刻	深刻な	なし	171	135	_	MD 0.53 増加	⊕⊕⊕○中	重要
		限界なし	不一致	-	不精確					(1.01 減少~		
			なし		さなし					2.06 増加)		

DLCO (DLCO(低い値ほど良好)													
4	RCT	深刻な 限界なし	深刻な 不一致	深刻	深刻な 不精確 さ	なし	526	_	_	統合せず	⊕⊕⊕○中	重要		
急性増	悪(追跡訓	周査期間 72 週)												
4	RCT	深刻	深刻な 不一致	深刻な 非直接性 なし	深刻	なし	10/526 (1. 9%)	14/486 (2. 9%)	RR 0.69 (0.2~ 2.42)	1,000 につき 9 減少(23減少 ~41増加)	⊕⊕○○低			

④ 慢性安定期 CQ5: IPF 患者にニンテダニブを投与するべきか?

質の評	価						患者の数		効果		エビデンス質	重要性
研究	研究	バイアス	非一貫	非直接性	不精確	その他	ピルフェ	プラセボ	相対	絶対数		
数	デザイ	のリスク	性		性		ニドン		(95%CI)	(95%CI)		
	ン											
死亡率	(追跡調査	期間 52~96	週、全死亡)								
3	RCT	深刻な	深刻な	深刻な	深刻	なし	60/981	42/508	RR 0.7	1,000 につき25	⊕⊕⊕○中	
		限界なし	不一致	非直接性			(6. 1%)	(8. 3%)	(0. 47∼	減少(44 減少		
			なし	なし					1.03)	~2 増加)		
肺活量	(追跡調査	期間 72 週;	%FVC、VC お	sよび FVC に	基づく SMD	で測定;高	高い値ほど良	好)				
3	RCT	深刻	深刻な	深刻な	深刻な	なし	691	482	_	MD 0.11 増加	⊕⊕⊕○中	
			不一致	非直接性	不精確					(0. 08~0. 14	,	
			なし	なし	さなし					増加)		
肺活量	(追跡調査	期間 72 週;	%FVC、VC &	よび FVC に	基づく SMD	で測定;	高い値ほど良	好)				
3	RCT	深刻な	深刻な	深刻な	深刻	なし	664/977	304/506	RR 1.15	1,000 につき90	⊕⊕⊕○中	
		限界なし	不一致	非直接性			(68.0%)	(60.1%)	(1.06~	増加(36 増加	,	
			なし	なし					1. 25)	~150 増加)		
有害事	象											
3	RCT	深刻な	深刻な	深刻な	深刻な	なし	927/981	456/508	RR 1.06	1,000 につき 54	⊕⊕⊕⊕高	
		限界なし	不一致	非直接性	不精確		(94.5%)	(89.8%)	(1.02~	増加(18 増加		
			なし	なし	さなし				1.09)	~81 増加)		
深刻な	副作用											
3	RCT	深刻な	深刻な	深刻な	深刻な	なし	284/981	153/508	RR 0.98	1,000につき6	⊕⊕⊕⊕高	重大
		限界なし	不一致	非直接性	不精確		(29.0%)	(30. 1%)	(0.83∼	減少(51減少		
			なし	なし	さなし				1. 16)	~48 増加)		

⑤ 慢性安定期 CQ7: IPF 患者にピルフェニドンとニンテダニブの併用を行うべきか?

質の評	価						患者の数		効果		エビデンスの質	重要性
研究 数	研究 デザイン	バイアス リスク	非一貫 性	非直接 性	不精確 性	その 他	ピルフェニドン ニンテダニブ	プラセボ	Relative (95%CI)	絶対数 (95%CI)		
有害		<u> </u>	<u> </u>					I	1	,	l	
1	RCT Ogura2015	深刻な 限界なし	_	深刻な 非直接 性なし	深刻	なし	10/21 (47. 6%)	4/12 (33. 3%)	RR 1.43 (0.57~ 3.58)	1,000 につき 143 増加(143 減少~860 増 加)	⊕○○○低	重大

⑥ 急性増悪時 CQ12: IPF 急性増悪に好中球エラスターゼ阻害薬を投与すべきか?

質の評価	ī						患者の数		効果		エビデンスの質	重要性
研究数	研究 デザイン	バイアス リスク	非一貫性	非直接性	不精確性	その 他	好中球エラス ターゼ阻害薬	プラセボ	Relative (95%CI)	絶対数 (95%CI)		
生存率	生存率											
1	RCT 石井 1998	深刻な 限界なし		深刻な 非直接性 なし	深刻	なし	22/49 (44. 9%)	15/26 (57. 7%)	RR 0.78 (0.50 ~ 1.22)	1,000 につき 127 減少(288 減少~127 増 加)	⊕○○○低	重大
酸素化	:(P/F 比))										
1	RCT 石井 1998	深刻な 限界なし		深刻	深刻	なし	23	20	_	MD 16.8 増加 (52.2 減少~ 85.8 増加)		重大
有害事	象											
1	RCT 石井 1998	深刻な 限界なし	_	深刻な 非直接性 なし	深刻	なし	2/51 (3.9%)	2/27 (7. 4%)	RR 0.53 (0.08 ~ 3.55)	1,000 につき 35 減少(68 減少~189 増 加)	⊕○○○低	重大